

もの言う牧師のエッセー 第296話

「日本奴隷列島」

モヤシの値段が安すぎるとして「工業組合もやし生産者協会」は取引先のスーパーなどに値上げを求めている。原料価格が2005年の3倍に高騰する一方、商品価格が1割下落、10年足らずで100社以上が廃業。今年4月時点で1袋200グラム入り30円の小売価格を40円前後にしたいという。これを聞いて、荷物一個あたり通常の半値以下の250円でアマゾンと契約してきた宅配便最大手の「ヤマト運輸」を思いだした。

同社が結局27年ぶりに基本料金値上げの方針を固めたことは耳目に新しい。また、ファミリーレストランの「ロイヤルホスト」は24時間営業を全面廃止、「すかいらーく」や「日本マクドナルド」も深夜営業の店を減らし、イオンは首都圏1都2県の大型店の約7割で開店時間を繰り下げ、三越伊勢丹は昨年より首都圏の多くの店で正月の初売りを1月2日から3日に遅らせた。サービスを提供する時間を増やせば消費を取り込み業績は伸びるという定説がまかり通り、消費者も配達時間の指定や24時間営業、元日からの開店を便利と歓迎したが、サービスを生むのはあくまで“人間”だという当たり前の事実を無視できたのは、日本経済が順調に拡大を続け人口減少が話題にならず、薄利多売でも儲けが出たからだ。

先進国を中心に35カ国が加盟するOECD（経済協力開発機構）によれば、2015年の日本の時間当たり労働生産性は42.1ドルで米国の6割強の水準、加盟35カ国中20位、1人当たり労働生産性は22位。日本の仕事率の低さは数十年前からのことだが、何のことはない、これでは奴隷と同じではないか！ 奴隷には休みがなく、いつも疲れているので生産性は下がり創造性は皆無、皆がやる気をなくす。などと言っていると、2020年東京五輪会場となる新国立競技場の地盤改良工事に従事していた建設会社の23歳男性社員が自殺した。月200時間超の時間外労働などの過重業務が原因という。いつまで日本はこんな悲劇を繰り返すのだろうか。 神は叫ぶ。

「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」

出エジプト記20章8節、

と。英語では休日を「Holiday」と言うが、それは正に“Holy Day(聖なる日)”を意味する。神を敬う国には休日が断固として存在し、生産性は上がり、豊かに収穫を得る。日本がキリストを信じ、奴隷状態から解放されることを今日も祈る。

2017-8-24



© Can Stock Photo